

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

C票

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日:2016年2月23日

2021年度に向けた教育研究目標

教育研究目標5「高大接続の推進」

主管部局 高大接続センター 担当部局 高大接続センター

【(1)高大連携と入試改革の推進:①学力の3要素を多角的に評価する入学試験の改革】									
(タイトル) 入学試験改革									
(狙い内容) 文部科学省の高大接続改革実行プランと連動して、本学で学ぶにふさわしい生徒を確保するための入学試験改革を行う。									
1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)									
高大接続改革実行プランに示された学力三要素を多角的に評価する入学試験を導入完了。									
<変更時記入欄>									
<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>									
2. 達成度評価									
評価指標	入試制度導入						評価尺度	A:導入決定 B:一部導入 C:検討(継続) D:導入できず	変更有無
	<変更時記入欄>							<変更時記入欄>	A: B: C: D:
3. 年度毎の目標値									
		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		C 課題検討委員会設置	C 課題検討委員会検討	C 課題検討委員会 検討	C 課題検討委員会 検討	C 課題検討委員会 答申	A 入学試験委 員会承認	入学試験導 入完了	有(無)
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> C	実績	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> C					
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 課題検討委員会設置		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 課題検討 委員会設置					
【2016年度の進捗状況について】 ←									
課題検討委員会を設置した。11月入試委員会で入学試験制度について懇談の予定である。									
<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>									

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？	→	はい・いいえ
<上記で「いいえ」を選んだ場合>		
①理由:		
②今後必要な取組み:		

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年2月6日公示

- ・ 高大連携と入試改革の推進は、現在の大学改革の焦点の一つですが、中教審の議論を見ても、「基礎学力テスト」と「進学希望者テスト(仮称)」の併用などについても議論は収斂されておらず、必ずしも見通しは明確ではありません。学力三要素を多角的に評価する入学試験の導入には、大筋では合意されているようですが、これまでの方法を大きく転換することになるため、かなりの準備と検討が必要であると思います。入試は、公正性と透明性が重要であり、合否判定の基準が明確に示されていなければなりません。多元的評価を基本とした入試制度が、それに耐えられるものであるかどうか、各大学は、多元性と公正性の同時的解決を求められているといえます。現在、課題検討委員会を設置し、高等学校との連携事業を進行中のようなようですが、国の高大接続改革実行プランそのものが不透明な段階で、どの程度の準備が可能かどうか、課題検討委員会はかなり難しい課題を抱えているものと推察されます。
国が主導する高大連携と入試改革は、高等学校の教育改革の流れと大学の教育改革の動向とをマッチさせようとするものですが、高等教育と大学教育の接続のみを意図した「大学の学校化」に繋がる政策のように思えます。大学のアドミッションポリシーは、高等学校との接続だけではなく、大学のディプロマ・ポリシーとそれを可能にするカリキュラム・ポリシーと整合性のあるものでなければなりません。高大連携のみを重視した入試は、入学後の初年次教育に必要以上の負担を追わせることにもなりかねません。例えば、京都大学における初年次教育は「これまで学んできたことを全て忘れさせること」に主眼が置かれていると同大学の関係者から聞いたことがあります。些か極端な言い方のようなようですが、連続する側面と非連続の側面とが、高等学校と大学の間にはあることは紛れもない事実です。中教審でもこの点が問題となり、「基礎学力テスト」と「進学希望者テスト」の2段階テストが構想されているのは、そのためであろうと推察できます。入試方法の多元化も重要ですが、周りの動向に振り回されないで、貴学が真に求める学生を受け入れることができる入試制度の改革を望みたいと思います。我が国において、アメリカの有名大学のように、アカデミック・アチーブメント、ソーシャル・アクティビティ、シティズンシップの三側面を等価に評価する学生受け入れ制度が定着できるかどうかは分かりませんが、貴学のような世界に開かれた理念を掲げる有名私立大学の先導的な入試制度改革に期待するところは大きいと思います。
- ・ 検討中なので止むを得ませんが、問題はどんな制度ができるかです。(B)
- ・ APが各学部や入試形態ごとに具体的に記述がなされてきたのであるから、それに相応しい入学試験になっているのかの検討ができるとも思われます。あわせて、入試制度改革の大まかなスケジュールを示す必要があるとみられます。(C)
- ・ 入試改革の内容が不明です。(E)
- ・ 課題検討委員会の成果を期待します。(G)

【(1)高大連携と入試改革の推進:②高大連携を通じた円滑な進学促進】

(タイトル)
高大連携

(狙い内容)
高大連携により高等学校から大学への円滑な進学を促進する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

SGH・SSH校をはじめ、ターゲットとする高等学校との連携を継続して実施する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	高大連携に関する案件の数値の維持	評価尺度	A : 40校との連携 B : 30校との連携 C : 20校との連携 D : 10校との連携	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A : B : C : D :	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		C 20校程度との連携	B 30校程度との連携	A 40校程度との連携	A 40校程度との連携維持	A 40校程度との連携維持	A 40校程度との連携維持	A 40校程度との連携維持	
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> B	実績	<2016年度末時点の見込> B					
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 35		<2016年度末時点の見込> 38					

【2016年度の進捗状況について】

2017年3月実施のSGH甲子園において新たな参加校が見込まれる。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい ・ いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年2月6日公示

- ・ 連携校数は、多いのが良いという訳ではないと考えますが、40校という数字の根拠が不明です。何故40校なのか、根拠を示すことが求められます。(B)
- ・ 高大連携の提携校との間で想定している具体的な活動のレビューが必要と思われます。(C)
- ・ 高大連携による連携高校からの大学への入学者数の合計を評価指標に加えられないかの検討が期待されます。(F)
- ・ 多様な能力を持った学生の獲得を期待します。(G)
- ・ 連携校からの志願者数、入学者数も指標として評価する必要があると考えられます。(J)